

木村 敏

9 思想

87.8.25

(1)
《著作集》

- ① 自覚の精神病理 . 紀伊国屋書店 . '69~'70.
- ② 人と人との間 . 弘文堂選書 . '72
- ③ 異常の構造 . 講談社現代新書 . '73
- ④ 分裂病の現象学 . 弘文堂 . '75
- ⑤ 自己・他・時間 . 弘文堂 . '81
- ⑥ 時間と自己 . 中公新書 . '82
- ⑦ 自分と「 ψ 」とは . ログハウス文庫 . '83
- ⑧ 直接性の病理 . 弘文堂 . '86

(g. 以上全2所存).

以上の著作の他に、

私は本主に私がある (自己論議集)

と... 題目で、金井美恵子との対談が、朝日出版社から出ている。(y. 所有)

木村敏について、

◎ 現代思想の嚮導、河出書房新社、'86

◎ 現代思想・入門Ⅱ、別冊全島52、'86

でこの思想が紹介されている。紹介者はどなたも小林敏明である。(y. どなたも所有)

○ 先ず小林敏明による木村敏の把握を述べ、
たゞ (木村自身に於ては如何なる) 。

以下は『現代思想の變遷』の小林
による、或いは小林と木村の対談の
まとめである。

1. 木村敏の基本的テーマは『自己』、『私』、即ち『己』
であった。この意味でテーマである『自己』と…の問
題の解明にあたり、ユングの『自己』の
主体、要するにユングの流の EGO、換言すれば
「私」と…の思考の方向は「私」
と…の前提があった。 ⇒ I 的の自己 (主語の自己)
に對する批判と、
I 的の自己 (述語の自己)
或いは場所としての自己の
主張。

この I 的の自己 (述語の自己、場所としての自己)
が如何なるものであるかを説明するために、彼は日本
独自の「間」とか「気」と…の概念を用いて
(= 此の概念を分析して) 「~~自己~~」の意味を

所談ニ属關(ニ)中(ニ)。

(例. 『人々との間』 と 『分裂病の理論』)

2. 循(ル)次(ニ)の段階は自己ニ「差異化の反響」としての自己」としてとらえられて説明される。

この段階の「間」が二分に空間的時間であり、 $P=I$ に対して $I=I$ は時間的関係としてとらえられ、時間と $I=I$ を key として、 $P=I$ ・ $I=I$ トウ(トウ) ; ポスト・ $I=I$ トウ(トウ) ; イントラ・ $I=I$ トウ(トウ) と $I=I$ の三個の概念を用い、加えて差異と $I=I$ の問題として上述の自己把握と取り扱う。

(例. 『自己・他・時間』)

3. 最近の段階では $I=I$ と $I=I$ と $I=I$ の term を用いて自己論に属關(ニ)する。勿論これは、 $I=I$ の段階の $I=I$ と $I=I$ と $I=I$ の term によってそれだけに対応して一貫性を保つては $I=I$ の特徴は $I=I$ の $I=I$ 化、即ち $I=I$ が $I=I$ になることと把握される。 $I=I$ の場合問題となるのは言葉、言語である。($I=I$ と $I=I$ は言語の問題ではなく『直接性の病理』)

以上9頁に須の思想は三段階に分けて
follow できる。

これは次に山本と木村の文章に於て上記三段階
の所説を適宜補足する。

- 。須は序全時代から時間には特別の関心を持っていた。
音楽に没頭していた。音楽は時間そのものを音
術形態にとらえた音楽術である。

離人症の状態では時間が寸断される。つまり時間
と意識との間に無数の断点に陥ってしまつて、そこ
を流れる時間がない。と同時に自分と意識との
時間と同じように寸断されて、無数の自分をアス
キル間隙がある。これは意識と自分との
断点がない。

時間と自己は常に断つてゐる。

時間が寸断される時、それと同じように意識の
断点も同時に寸断されるのである！

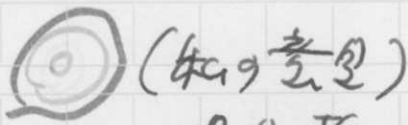
《'物'束に'心'を照らす》

《物来りて其を照らす》とは。

物が何處かより来ると、物がそれ自身存在
を明かにするとき、力の力の自身も何處
に於て、それに照らし出される(はじめに自覚される)。

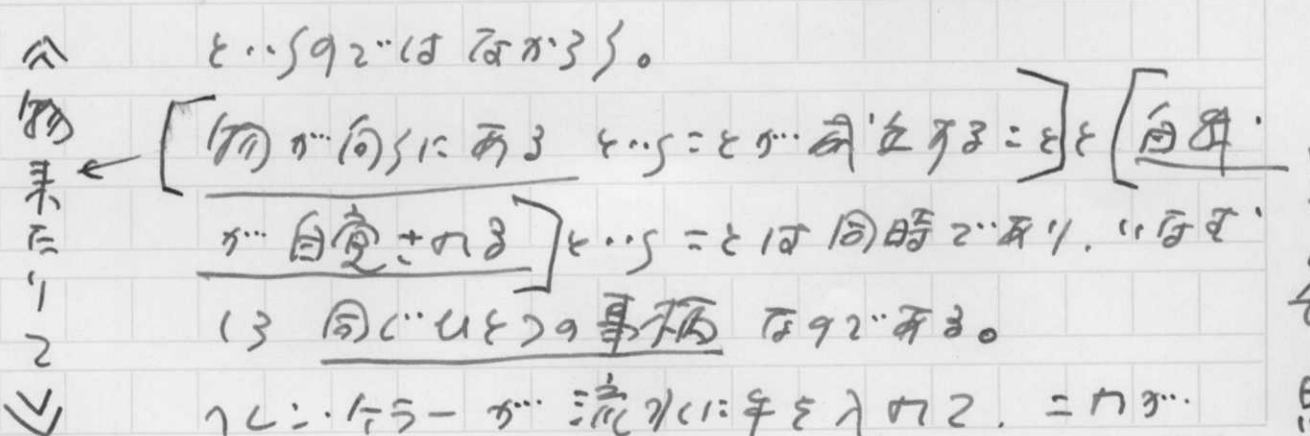
これは西洋式の、その自身とあるゆる知識の
管の中(心と)に於て、その作用と
して知識なり認識なりとするが行われる。

外景の事物が外に於てあると、その構造
には於て自ら論じられるが、それは。



(その意識)

＝その場合、その物に於ては、物と...と...と
ある、それが主として、その...の...
自身に於て、その...の...の...
は dormant の状態に於て、その...の...
と...の...は、それである。



water と...s と...s があることを知った瞬間、水 は 自分 と...s と...s があることを知った瞬間である。

物の存在が...s と...s = 自己の存在 (存在) と...s = 自己の存在 (存在) である。

(片方の時間を別の時間として見ることは自己)
(片方の物の存在によって初めて照らされるのは自己)
これはもはや実在的に自己と...s 「存在」として世界を...s と...s にかきわけて...s である。...s と...s である。

木村の用...s / Iニス・Iニと...s 用語はフッサールから...s (西田幾太郎) から...s である。

フッサールの Iニスの場合 Iニスの意向作用の根本...s には 超越論的自分 を置...s である。自分が...s となる。西田の場合、Iニス・Iニと...s 言葉自体は...s フッサールから...s 借り...s である。その意味は...s である。Iニス...s, Iニ...s と...s 形...s である。

語句 述語面、主語面 と同様に用...する

113。



自己か...

風に吹か...る 枯葉一枚一枚の枯葉

あの枯葉は淋しい と...場合

淋しい は 何らかの こと である。それは
は 自己か 葉...の こと に関与する あり方...
ある。それを作用と呼び... こと 自身
か... こと 受ける作用... こと 1 である
と言ふ。一方 葉...の こと 1 である

→ 85 に 我々が 自己... こと。それは 世界
の 中... こと に関与... 作用...
113. ~~作用~~ 作用... こと 自身... こと

→ こと 出来る... こと 1 である 自己と呼ぶ。
一方、我々は 自分... こと 一つ...
こと 12. 葉... こと 一種 ~~こと~~ の こと 113
自己がある。 ~~こと~~
こと 1 である 自己と呼ぶ。

但し、1 である 自己 ~~こと~~ は 何らかの
こと 12

てあって、決して 自我 ではない。 — その 自我 が 自己 と 他人 である。 自己 と 他人 の関係は 自己 と 他人 の関係である。 自己 と 他人 の関係は 自己 と 他人 の関係である。 自己 と 他人 の関係は 自己 と 他人 の関係である。

間である場所、人々との間、自己と他人との間。自己と相対する間である場所を言う。 = 人間から自己と相対するそれぞれに分かれてくるとするならば、自己 と 他人 の関係は 自己 と 他人 の関係である。 自己 と 他人 の関係は 自己 と 他人 の関係である。

だから 自己 と 他人 の関係は 自己 と 他人 の関係である。 自己 と 他人 の関係は 自己 と 他人 の関係である。 自己 と 他人 の関係は 自己 と 他人 の関係である。

私は世界を知りたい、世界は私を知りたい。

《木村玄論 ⅩⅤ》

◎ 《和》は理想である。実質では和。
つまり process である。

◎ $\frac{音}{音}$ は $\frac{音}{音}$, $\frac{音}{音}$, $\frac{音}{音}$... から成り立っている。
しかしその本質的なるものは音と音の間、
silence である。

人間も 今、今、今 ... から成り立っているが、
本質に自分か、自分と12ある自己は、その
今と今と部分に成り立っているのか。

◎ 死者には時間か流れはない。つまり点
時刻の存在。つまり存在しない。

◎ Depersonalisation, Depersonalisation

◎ 自己意識 (Selbstbewusstsein) は = 節
構造である。

その1節: 自我の自己の産出

その2節: 自己の自己の自己の自己性

自己の自己の自己の自己性 (Inequality)
自己の自己の自己の自己性
確認。

◎ 死は個々関係する。個々の死は死ではない。

◎ 何の根拠もないままに、何の説明もないままに、それ自体で自明 (Selbstverständlich) である。それが有である。世界である。

◎ ((自己))と...根源的自覚、自分が自己である、自分が生きていると...根源的自覚は他がないから、根拠も不要である。

『AはBであるが故に、知は生きている』と...論理は打たれていない。AはBであるが成り立つ、それによってA点に知は生きているが成り立つというわけではない。

◎ 1L: 缶 - water, w:a:t:e:i:n
缶に冷たい water の中に入れ、12年経たずに w:a:t:e:i:n 39歳 (1971) 27L: 缶 - は個々の水、水は生きているが原因で生きている。同時に 自分が生きているが原因で生きている。

水は生きているが故に、水は生きているが原因で生きている。同時に 自分が生きているが原因で生きている。